

夏休みの米たき係

豊川小・3 宮下 誠志郎

今年の夏休み、ぼくは家で「米炊き係」をすることになりました。お母さんがいそがしい時にごはんを炊くお手つだいです。米たきは今までやったことがなく少しむずかしそうだなと思ったけれど、ちようせんしてみようと思いました。毎日ごはんをたく前にはまずお母さんに「今日は何合たくの。」と、かくにんします。二合の日もあれば米をたくさん使う時は三合の時もあります。二合と三合では、お米をあらうときの感かくが全ぜんちがいます。二合のときはお米が少ないので手の中でやさしくあらえるけど三合になるとずっしり重くて何度もあらわないといけません。

「あれ、こんなにちがうんだ。」  
と最初はびっくりしました。水のりようも毎回どきどきします。すいはんきの内がわに、「二合」「三合」と目もりがあるけれど、何度もまちがえそうになりました。二合なのに三合の線まで水を入れかけて、

「しまった。」  
と思ったこともあります。ある時は実さいに水を入れすぎてしまつてごはんがべちゃべちゃになって、まるで赤ちゃんのりにゆう食のよう。「うわあ。」と声が出てしまいました。でも家族は、

「やわらかくてこれはこれでいいね。」

とわらって食べてくれました。妹は、

「スープみたいで食べやすい。」

と言ってくれてほっとしました。もう一つ大しっぱいしたことがあります。それはすいはんきのすいはんボタンをおしわすれてしまったことです。ごはんの時間になってさあ食べようとふたを開けたら、なんとお米がたけていましてした。

「あつ。おしてなかつた。」と気づきました。みんながおなかをすかせていたので、冷やあせが出ました。でもお母さんはわらって、

「いいよいいよ、今日は先におふろにしよう。そのあとたきたてを食べればいいじゃん。」

と言ってくれて、気持ちがあつと、楽になりました。おふろあがりには食べたごはんはいつもよりおいしく感じました。そんなふうにしっぱいもあつたけれど何度もたいていくうちに少しずつ上手になつてきました。たき上がったごはんのつややかなかおりで、

「今日は成こう。」自分で分かるようになったときは、うれしくて思わずにやつとしてしまいます。お母さんにも、

「だんだん上手になつてきたね。」とほめられて自しんがわきました。夏休みの終わりごろには、お父さんが、

「今日のごはんは甘くておいしいな。」

と言ってくれました。家族がよろこんでくれると、自分の心まであたたかくなります。夏休みの米たき係は、ただのお手つだいだと思つていたけど、やってみたらとても大切で楽しい仕事でした。これからも、もっと上手になつて家族にうれしいごはんをたいてあげたいなと思います。